

福祉の「まち」づくりめざし

推進協議会がスタート

生活環境の改善、障害者福祉サービスなど重点に

日光市は、国際障害者年を記念して「障害者福祉の「まち」づくり」を強力に進めるため、十一月十日「日光市障害者福祉のまちづくり推進協議会」を設置しました。そして、障害者の福祉向上のため、各種施策を積極的に進めています。

この推進協議会は、上吉原市助役を会長に、市身体障害者友愛会、栃木県精神薄弱者育成会日光支部、市社会福祉協議会、市民生委員協議会、日光市の五団体から選ばれた十四人の委員で構成されています。

生活環境の改善では ①公共施設の改善（出入口のスロープ化、自動ドア化、障害者用便所の整備、車いすの配備、点字ブロック・点字板の整備など）②道路・交通安全施設等の改善（歩道の段差解消、視覚障害者用信号装置の整備、誘導ブロックの設置）

●障害者福祉サービスの実施では、①手話奉仕員、点訳奉仕員、朗読奉仕員の養成 ②日常生活訓練、社会適応訓練、介護技術指導、更生相談の実施 ③福祉施設の整備（通所・通園施設、点字図書コーナーの設置）④スポーツ・レクリエーション等の振興など

安定した積雪量が見込めるようになり、それに伴って、スキー客も年々増加してきています。新リフトは「第三リフト二号線」と呼び、これまでの第三リフトに並行して設置され、長さは四百六十九メートル、旧第三リフトより八十分長くなります。

開幕に向け準備進む

第三リフトの完成も間近

市営霧降高原スキー場

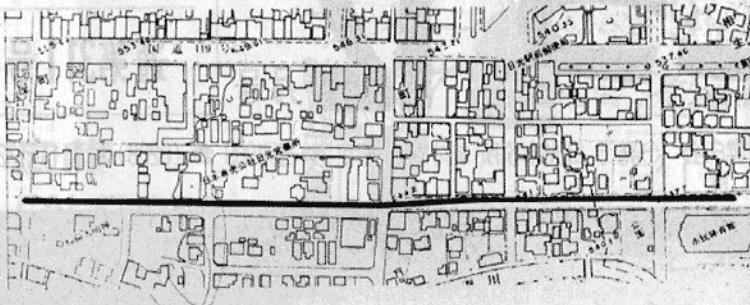
◆市民啓発事業として ①市民講座の開催 ②講演会、映画会、福祉展の開催 ③交流の集い ④教育副読本の作成 ⑤協力校の指定

市霧降高原リフト事業所は、スキー客輸送の増強をはかるため、総工費九千二百八十九万円をかけて工事を進めているリフトの増設

が、間もなく完成します。霧降高原スキー場は、昭和五十二年に四台のスノー・マシーンを導入して人工降雪を始めてから、

リフト料金は昨年と同じで、一回券百円、六回券五百円、一日券千五百円です。

日光市公共下水道事業(日光処理区)下水管理設工事位置図



相生、松原、石屋町地内

下水管理設工事始まる

完成は来年三月中旬

日光市公共下水道事業(日光処理区)の下水管理設工事が、来年三月中旬の完成をメドに工事が始まりました。

今回の工事は幹線ですが、各家庭から幹線に接続する枝線の工事今月中に着工することになっています。

工事を実施する区間は、相生町、松原町、石屋町地内の都市計画道路、市体育館前から日本専光公社日光営業所前までの四百七十七メートル。

工事期間中は、歩行者や自動車の通行にご迷惑をかけると思いますが、工事がスムーズに進むようご協力をお願いします。



第三リフト2号線の新設工事